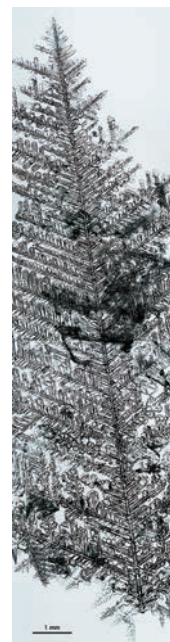


## 第12回 科学技術の「美」パネル展 最優秀賞受賞

雪氷防災研究センター新庄雪氷環境実験所の阿部修客員研究員が、第12回科学技術の「美」パネル展で最優秀賞を受賞しました。同展は、科学技術団体連合が主催し、研究過程や研究成果の中で生じた美しく感動的な画像を、科学者や研究者のみならず一般の方々とも共有しながら、科学技術に関する関心を一層広げる作品を公募し表彰するものです。阿部修客員研究員の作品は、雪氷防災実験棟で作られた雪の結晶を撮影したもので、その貴重な美しさが高く評価されました。阿部修客員研究員は「この写真は、たまたま顕微鏡の視野に入りきれないほど大きな人工雪を見つけたので、移動装置を使って6枚に分けて撮影し、後から合成したものです。この作品が選ばれたのは、雪の結晶に、人を引きつける魅力があるからではないかと思っています」と語っています。



阿部修客員研究員



雪氷防災実験棟の人工雪

## 平成30年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞（開発部門）受賞

地震津波火山ネットワークセンターの高橋成実副センター長が、「地震津波観測システムの開発」により、平成30年度科学技術分野の文部科学大臣表彰を受けました。巨大地震発生が懸念されている南海トラフ域にリアルタイムで地震や津波等を観測する観測網を構築したことが評価されました。これらの観測による

データは気象庁による緊急地震速報や津波警報発表にも使用され、地域の防災施策にも大きく貢献しています。高橋成実副センター長は「今後も、リアルタイム海域観測網の有効性を考慮し、防災施策に貢献できる情報発信を心がけていきたいです」と語っています。



(左から)香川大学 金田義行教授、海洋研究開発機構 川口勝義海洋工学センター長、地震津波火山ネットワークセンター 高橋成実副センター長



高橋成実副センター長

## 平成29年度日本地震工学会論文賞を受賞

社会防災システム研究部門の先名重樹主幹研究員および小澤京子特別技術員が、平成29年度日本地震工学会論文賞を受賞しました。この賞は、独創的な業績により地震工学および地震防災における学術・技術の進歩、発展への顕著な貢献に対して授与されるものです。受賞論文は「若松加寿江・先名重樹・小澤京子：2011年東北地方太平洋沖地震による液状化発生の特性」です。先名重樹主幹研究員は「液状化被害等の地震被害に関する精度の高い基礎情報の収集・分析・とりまとめは、地震ハザードや地盤振動に関する研究において必要不可欠な取り組みです。今後も精力的に取り組んでいきたいと思っています」と語っています。

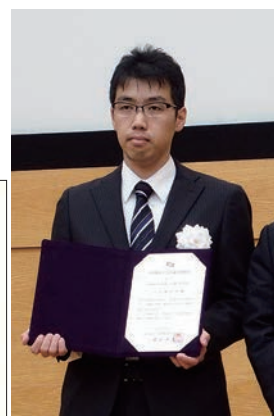


先名重樹主幹研究員（左端）、小澤京子特別技術員（右端）

## 平成29年度日本地震工学会論文奨励賞を受賞

地震津波防災研究部門の久保久彦特別研究員が、平成29年度日本地震工学会論文奨励賞を受賞しました。この賞は、優れた研究により地震工学および地震防災の分野で顕著な業績をあげたと認められた若手研究者に授与されるものです。対象論文は、鈴木亘主任研究員、功刀卓主任研究員、青井真総括主任研究員とともに行った「小笠原諸島周辺の深発地震による地震動の距離減衰特性」です。久保久彦特別研究員は「深発地震による地震動はその独特な伝播特性のために非常に複雑であることもあり、この研究を論文としてまと

めるまでには紆余曲折がありましたが、その成果が日本地震工学会の論文奨励賞という形で評価されてとてもうれしく思います」と語っています。



久保久彦特別研究員

## 2017年度日本地震学会若手学術奨励賞を受賞

地震津波防災研究部門の徐世慶（XU, SHIQING）特別研究員が、2017年度日本地震学会若手学術奨励賞を受賞しました。この賞は、優れた研究により地震学の分野で特に顕著な業績をあげた35歳未満の会員に贈られるものです。受賞対象となった研究は「モデリング・理論・室内実験による地震の物理の総合的理解に向けた学際的研究」です。徐世慶特別研究員は「今後も断層すべりおよび破壊伝播について、特に地

震ハザード評価への活用を目指して、様々な観点からの学際的なアプローチによる研究を推し進めて参りたいと思います」と語っています。



徐世慶特別研究員



## 第22回 自治体総合フェア2018

5月16日～18日に東京ビッグサイトにおいて、「第22回自治体総合フェア 2018」が開催されました。防災科研はプレゼンテーションセミナーとブース展示を行いました。

プレゼンテーションセミナーでは、「災害初動期における情報システムのあり方」と題し、社会防災システム研究部門の伊勢正主幹研究員が講演を行いました。

ブース展示では、戦略的イノベーション創造プロ

ラム（SIP）「レジリエントな防災・減災機能の強化」の研究成果として、的確な災害対応を行うために、国全体で状況認識を統一し、災害による被害情報を共有・利活用するシステムや、「攻め」の防災に向けた気象災害の能動的軽減を実現するイノベーションハブの取り組みについて紹介しました。

プレゼンテーションセミナー、ブース展示ともに多くの方にご覧いただくことができました。



ブースの様子



プレゼンテーションセミナーでの講演

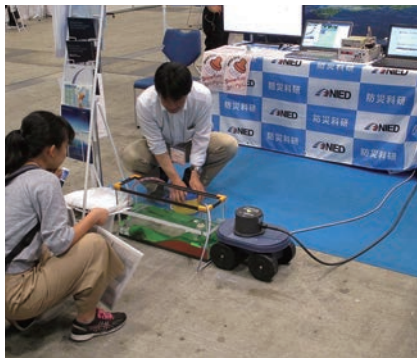
## JpGU Meeting 2018

5月20日～24日の5日間にわたり、千葉市の幕張メッセにおいて「JpGU Meeting 2018」（日本地球惑星科学連合2018年大会）が開催され、防災科研はブース展示を行いました。

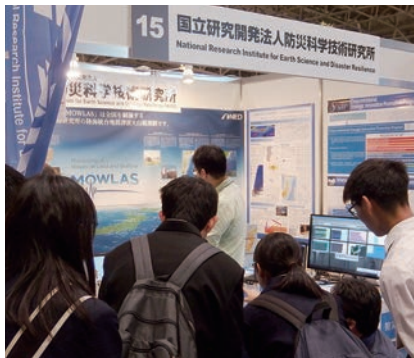
地震津波火山ネットワークセンターの取り組み紹介として地震計・水圧計の実演展示やHi-netの準リア

ルタイム波形展示などを行い、陸海統合地震津波火山観測網「MOWLAS」（モウラス）の役割や、各観測網で捉えた情報の利活用について紹介しました。

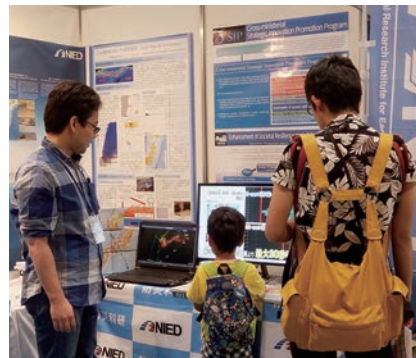
また、前回好評だったスタンプラリーにも引き続き参加し、学生や海外からの参加者など多くの方々に広く防災科研の取り組みを紹介することができました。



地震計・水圧計の実演展示



「MOWLAS」の紹介



ブースの様子

## 2018 防災産業展 in 東京

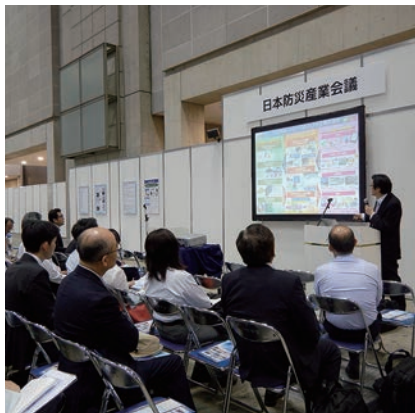
5月30日～6月1日に東京ビッグサイトにおいて、「2018 防災産業展 in 東京」が開催されました。防災科研は講演とブース展示を行いました。

基調講演では、「研究成果の社会実装を目指した防災科研の試み」と題し林春男理事長が、出展者セミナーでは「“攻め”の防災に向けて」と題し気象災害軽減イノベーションセンターの岩波越副センター長がそれぞれ講演を行いました。

ブース展示では、戦略的イノベーション創造プログ

ラム（SIP）「レジリエントな防災・減災機能の強化」の研究成果と、「攻め」の防災に向けた気象災害の能動的軽減を実現するイノベーションハブの、ステークホルダーとの連携により地域特性・利用者ニーズに応じた予測情報システムの社会実装の実現について紹介しました。

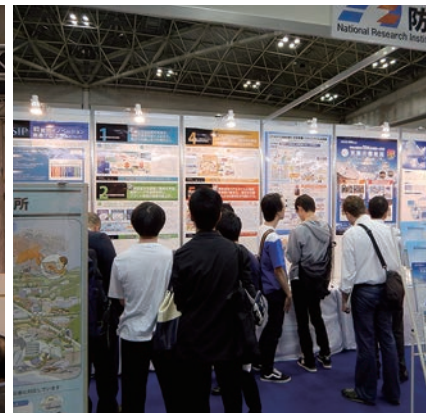
講演会、ブース展示ともに多くの方に防災科研の取り組みを紹介することができました。



出展者セミナーでの講演



基調講演



ブースの様子

## 第5回「震災対策技術展」大阪

5月31日～6月1日にコングレコンベンションセンターにおいて、第5回「震災対策技術展」大阪が開催されました。防災科研は講演とブース展示を行いました。

31日には林春男理事長が「Society 5.0 に向けた防災科研のとりくみ」と題し、講演を行いました。

展示ブースでは、Eーディフェンスの施設紹介と地震被害のVR体験を行いました。

VR体験は2日間で約100名の方に体験いただきました。

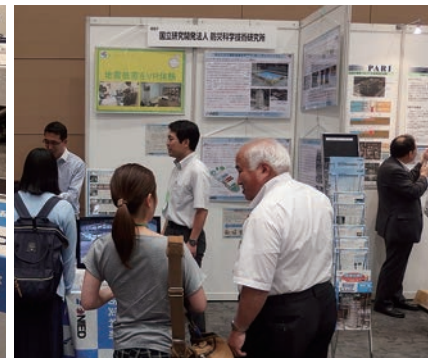
講演、ブース展示ともに多くの方にご来場いただき、防災科研の取り組みを紹介することができました。



講演の様子



VR体験



ブースの様子



## 一般公開（つくば本所）

4月22日に第59回科学技術週間に合わせて、一般公開「ぼうさいミュージアム 2018」を開催しました。

「防災力を向上させよう」をテーマに、「科学実験屋台村」での実験や工作、研究者の講演、地震の揺れを体験できる地震ザブトン、Eーディフェンスによる地震被害のVR体験など、様々な自然災害を学ぶイベントを行いました。

大型降雨実験施設では、1時間降雨量300mmの豪雨体験や、地すべりシミュレータ、河川シミュレータを体験してもらうなど、大雨について学んでいただきました。

前回は上回る1500名以上の方々にご来場いただき、今年の一般公開も盛況を収めることができました。



豪雨体験。大雨体験者多数



ナダレンジャーの自然災害実験教室



科学実験屋台村。どんな工作をしているの



地震計をつくってみよう



噴火実験。何メートルの噴火かな



地震ザブトン。揺れが凄い



研究者のお話。「そうなんだ」うなづく人多数

## 防災科研ニュース

2018 No.201

2018年6月29日発行

●防災科研ニュースは Web でもご覧いただけます

制作：編集協力 株式会社 新建新聞社

発行 国立研究開発法人 防災科学技術研究所

〒305-0006 茨城県つくば市天王台 3-1 企画部広報課

TEL.029-863-7768 FAX.029-863-7699

URL : <http://www.bosai.go.jp> e-mail : [k-news@bosai.go.jp](mailto:k-news@bosai.go.jp)